



TITLE:

ハラスメントの予防的取り組みに向けて

AUTHOR(S):

中川, 純子

CITATION:

中川, 純子. ハラスメントの予防的取り組みに向けて. 京都大学カウンセリングセンター紀要 2008, 37: 11-29: 30058.

ISSUE DATE:

2008-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/156341>

RIGHT:

ハラスメントの予防的取り組みにむけて

中 川 純 子*

問題

1. ハラスメントの予防的取り組みの必要

大学におけるハラスメント問題への取り組みは、平成10年10月の人事院勧告、平成11年4月の文部省訓令によりセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程が施行されて以来、まずセクシュアル・ハラスメントから、そして性的な要因に限らぬさまざまなハラスメントに対する取り組みへと拡大してきている。また、「アカハラ」や「パワハラ」として、「性的要因に寄らない、教育研究の場や職場の権力関係の中での嫌がらせ」という一般的定義が広がるにつれ、大学で取り扱われることを期待される「ハラスメントの範囲」が限界を意識されず広がりつつもある。その内容には、そもそも違法・触法行為といえるものから、労働争議、人格を傷つける言動、不適切な指示や指導、好ましくない環境、期待や要求のずれ、状況認識のずれ違い、コミュニケーション不足などまで含まれつつある。

中でも深刻なハラスメントが大学内で生じると、被害者の教育・研究環境を損ない、心身の健康への影響も大きくなる可能性が高いばかりでなく、当事者周辺の人々の動揺も連鎖的に起きる可能性が高い。たとえ申し立てがなされて、当事者同士の調停、あるいは司法手続による解決でもよいが、それが終結をみても、その現場と構成員たちはその後しばらくさまざまな面で影響を被っているものである。こういった深刻なケースが起こってしまった場合、各々のケースへの「事後」対応として、大学による公的で中立公平な調査・対処と、当事者関係者を息長く支援する内外のリソースがともに必要であり重要であるのはいうまでもない。しかしハラスメント事態が深刻になってからでは、当事者と関係者にとってはもちろんのこと、大学にとっても大きな人的資源、時間的資源、信頼感の喪失となってしまう。何か「事前」にできる対策を考えることが長期的な視点からも必要である。

多くの大学がとっている方策として、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどの概念と簡単な例をパンフレットやホームページなどで紹介し、知識として大学の構成員に浸透させる方法がある。最初に目にした時点ではさほど関心がなかったとしても、気になった時、必要になった時にその情報に再度たどり着くことができる媒体を利用することにより、必ず一定の効果をもたらすと考えられる。同様に、概念や理念を紹介する研修講演なども、関心を持った人がより知識を増やすことができる点で一定の効果があるだろう。

* 京都大学カウンセリングセンター

また、相談窓口の担当者や人権委員等は、より具体的な研修を受ける機会が多く、現実の生の問題に触れて当事者とともに苦勞する経験を持つことが多い。その役割を一定の任期で交代して多くの人が経験することにより、少しずつハラスメント問題に詳しい人材が学内に増えていき、大学全体の良識の形成に寄与するという効果も生じてくる。地道な啓発活動、事後対策のための活動が、まずは継続すべき予防的対策でもあったと考えられる。

2. 教育改善の視点から

西村（2005）は、ファカルティ・ディベロップメント（FD）の充実がアカデミック・ハラスメントの発生を減少させるのではないかと考えている。ハーバード大学Wilkinson, J. (1997) の講演を引用し、「研究者としてだけでなく教育者としてよりよくなるためにFDが助けとなるはずであり、教育技能を無視しては昇任や終身在職権は考慮できず、その点に問題がある教員への技能訓練の機会を与える」、というハーバード大学の状況も参考とした上で、アカデミック・ハラスメントは「被害者－加害者という構図でしめされる性質のものではなく、むしろ、加害者側の教育技能の改善、教育者としての理念と技能の習熟の機会を大学教員のファカルティ・ディベロップメントとして行うことで防止していく方向性を提言したいと思います（西村, 2005）」と述べている。これは、パワー・ハラスメントを上司の管理能力・マネジメントの問題としてもとらえる、梅津・岡田（2003）の視点とも重なるものであろう。

学生にとって、修学・研究等でつまづき、その後の指導関係がこじれてしまうと、アカデミック・ハラスメント問題に発展する直接的きっかけになることが多い。そのためFDの一環として対策を考えていくことは重要な柱になるだろう。しかし、教員には、教育・研究技能だけでなく、より広範な、教育理念、研究への姿勢、人生への向かい方、といったような、「師」というイメージの人格者のモデル像も理想的に求められるものである。「ハラスメント」と感じる状況には、その辺りへの感情的こじれも背景として存在することが多いと思われる。また、基本的に教育というのは相手あつての相互作用のものである。教員が学生に求めるものもまた多い。それは資質ばかりではなく研究への姿勢、人生への向かい方なども同様に求めていることが多い。

たとえば、京都大学自己点検評価で行われた教員アンケートでは、「先生が期待なさっている学生像と比較して、現実の学生はどうですか」という問いに対して得られた回答のかいつまんだ傾向を次のように記している。「一般に優秀な資質を有していることは認めるが、概して無気力で、受動的で目的意識に欠ける。独自の思考能力に乏しく、マニュアルに頼りすぎる傾向がある。読書量が絶対的に不足し、一般教養に欠け、表現力も乏しく、精神的にも未熟である（自己点検・評価専門委員会, 2001）」この辛辣な記述の一方で、教員にも責任の一端があるのではないかと、学生の入学時の期待に教員が応えられていないのではないかと、という自己批判も同報告書では示されている。

学生の方は、「教育体制について」という設問への自由記述で概して「教師が不熱心、講義が

おぞなりで、興味が持てないもののおおい…（中略）…より基礎的な講義を…（中略）…学生の個性、レベルに合わせた教育や研究指導をして欲しい（自己点検・評価専門委員会,2001）」と教員に対して厳しい見方を示している。また、大学内に「教授たちへの信頼や愛着の基礎となるべき教官と学生との人間的な交流がない（自己点検・評価専門委員会,2001：平成11年度学生生活実態調査自由記述抜粋）」といった教育の背景となる人間的交流を望んでいる姿も見られる。

理想的な教員像や学生像は、そこに目標をおくために必要であるが、生身の人間に現実的に期待し得る限界は、能力的にも時間的にも存在する。理想像を求めて減点法のみで現実の相手を評価しても不満が多くなるばかりである。また期待のある一側面にだけ合わせて修正をはかろうとしても、今度は別の期待の一端が裏返しとして不満で出てくるものである。これは集団対象の場合は構成員の多様性を考えれば当然のことであるが、一個人を対象としてでもある程度起きる現象ではないだろうか。現実期待する範囲内で、お互いが何を期待し何に失望し、どの加点を選択して期待をすりあわせ、関係を継続していくのか（あるいは関係を終了させるのか）、という視点を常に持ち続けられるようになることが、ハラスメント予防に重要になると考えられる。

3. 当事者間の期待のずれ、ミスマッチの視点から

このように、教員に対する期待も、学生に対する期待も、おそらくお互い一人で満たすにはとうてい無理な、時には矛盾する内容の期待、例えば“細かな指導”VS“自主性の尊重”などを共存させて漠然と存在すると思われ、これが何かトラブルが生じたらどちらかに偏った状態のくいちがいとして輪郭が際立ち、不満として認識されていくと思われる。

中川（2006）は、アカデミック・ハラスメントの架空事例を、当事者両者の望んだ方向性、課題の適切性、コミュニケーションの適切性の3点から検討し、個々のアカデミック・ハラスメント問題のはじまりはおそらく、当事者である学生と教員の期待や予断や偏見や欲望のずれであると考察した。双方の期待のずれ、ミスマッチが当然あることは前提としても、お互いの期待等をよく知ること、ミスマッチの可能性を認識すること、ミスマッチを修正していくことが、アカデミック・ハラスメントを深刻な事態に悪化させないために必要になっていくと考えた。

一方、さまざまな、時には矛盾する内容の期待を共存させつつ、対人関係を結ぶことは、それがよい方向に向かう時には、相手に対する度量の広い人間関係を持つことができるだろう。そのためには無自覚に相手に期待するのではなく、自身の期待の内容に自覚的になることが必要ではなかろうか。上下関係のある対人関係で、相手に対してどのような期待を持つかを自覚する機会を提供することが、ハラスメントになりうる事態を減らし、深刻化をくいとめる基盤の一つにならないだろうか。そしてその期待が現状で可能であるかどうかを検討し、それを関係に反映する姿勢を作っていくことは、マネジメントや教育技能の向上にも通じ、学生の立場からはよりよいコミュニケーションをめざす自己啓発になるだろう。これもハラスメントの予防的視点から重要なことである。

矛盾した期待を自覚的に意識するのは、ただぼんやりと考えていてもおそらくは難しい。目で見て意識できる方法に利用できるものとして、桑原（1991）の人格の二面性測定尺度（TSPS II）を取り上げたい。桑原（1991）は、人格内に存在する対極的な側面を“人格の二面性”と呼び、二者択一によって規定し得ない複雑な人格をSD法を応用した質問紙で測定するため、TSPS、TSPS IIを開発した。これは意味的に対立する形容詞対を両端に並べるものの、一般的SD法と異なり、それぞれ独立に「あてはまる－あてはまらない」程度を評定するものである。この質問紙で自身の性格を評定する時、人は「私は、やさしい…こともあるし、時々厳しいこともあるな」と状況に応じて異なる自身の両面を表現することもあれば、「大胆…かつ細心だ」などと、一つの課題に向かいつつも共に発揮される能力を表現することもある。これは対人関係における相手への期待を評価する際にも十分生じる心の動きであると考えられる。今回は試みに学生を対象として、アンケートを作成・実施し検討、考察することとした。

目的

1. 学生が持つ、教員等上の立場の人への期待の構造を探索的に明らかにする。
2. 上下関係のある対人関係における、自己のあり方と相手への期待を、並列して見ることにより促される自覚と気づきを探索的に検討する。

方法

1. アンケート課題の作成：桑原（1991）の人格の二面性測定尺度（TSPS II）にある60項目対120語の中から、A4用紙1枚に窮屈でなくおさまる程度の10項目対20語を選択した。選択にあたっては、桑原（1991）の示した5因子に渡るように、より研究指導等の対人関係場面に意識されやすい項目対を選んだ。それらに大学での研究活動において影響を与えられと考えられる項目対を2対（4語）追加した（表1）。この12項目24語による7段階評価で、相手への期待と自己評価を行うシートを作成

表1. アンケート使用項目対

No.		No.	出典	因子 **
001	気軽な	101	TSPS II *	I. 内省－非内省
002	因習的な	102	TSPS II	V. 情緒安定－情緒不安定
003	支配的	103	TSPS II	II. 非活動－活動性
004	世話好き	104	TSPS II	III. 非主導的－主導的
005	のんびりした	105	TSPS II	II. 非活動－活動性
006	傑出した	106	新規	－
007	おおやかな	107	TSPS II	I. 内省－非内省
008	大胆	108	TSPS II	IV. D型－E型
009	能力主義の	109	新規	－
010	冷静な	110	TSPS II	V. 情緒安定－情緒不安定
011	執着する	111	TSPS II	V. 情緒安定－情緒不安定
012	自立的	112	TSPS II	II. 非活動－活動性

*, ** 桑原(1991)による

し、比較して見やすいようにA3用紙左半分に相手への期待評価、右半分に自己評価を配置した。教示は以下の通りである。

相手への期待評価：「研究室や職場などで、権力関

係で上下にあたる相手（教員やバイト先の上司など）に、どうあってほしいと、あなたは考えているでしょうか。以下にさまざまな言葉が対になって並んでいます。それぞれの言葉が、相手への「期待」にどの程度あてはまるかを考えて、次のようにつけてください。／左の語と右の語に

ついて、それぞれ独立にどの程度あてはまるかを考えてあてはまるところに○印をつけます。上の例は、やさしい、については「かなりあてはまる」、きびしいについては「少しあてはまる」場合の答え方です。」

自己評価：「研究室や職場など、権力関係の上下が存在する場面で、あなたはどのような学生でしょうか。以下にさまざまな言葉が対になって並んでいます。それぞれの言葉が、自分にどの程度あてはまるかを考えて、次のようにつけてください。／左の語と右の語について、それぞれ独立にどの程度あてはまるかを考えてあてはまるところに○印をつけます。上の例は、やさしい、については「かなりあてはまる」、きびしいについては「少しあてはまる」場合の答え方です。」

また、記入済みの相手への期待評価シート、自己評価シートを見ての気づき、対人関係への気づきを書く自由記述欄を別紙に設けた。

2. アンケート対象者：京都大学全学共通科目の心理学講義時に実施。ハラスメント関連の講義3回の後^{*1}、小レポート課題として出された。記名式。講義登記者96人、提出者80人、うち1名には欠損値があった。したがって、計79人（1回生67名（うち男性52名、女性15名）、2回生12名（うち男性10名、女性2名））を分析対象とした。

3. 実施日：2007年5月21日～28日

結果

1. 基礎集計：

各評定語の評価対象別の平均値、標準偏差を以下に示す（表2、3）。自己評価、相手評価それぞれについて、評定語毎の平均値に性差は検出されなかった^{*2}。

自己評価の各々の 表2. 平均評定値：自己評価

評定語の平均値を自己評価全体の平均値（3.373）と比較したところ^{*3}、有意に高かったのは「慎重な」「のんびりした」「無難な」「おおやうな」であり、有意に低かったのは「支配的」「傑出した」「厳格な」であった。被検者学生全体の平均的「上下関係の中での」自

番号	評価語	合計(79人)			男(62人)		女(17人)	
		平均値	SD	t	平均値	SD	平均値	SD
S001	気軽な	3.30	1.45	-0.423	3.47	1.43	2.71	1.40
S101	慎重な	4.08 ***	1.13	5.532	4.05	1.18	4.18	0.95
S002	因習的な	3.01	1.39	-2.301	3.08	1.41	2.76	1.35
S102	新しがりの	3.24	1.25	-0.939	3.39	1.26	2.71	1.10
S003	支配的	2.37 ***	1.45	-6.159	2.42	1.51	2.18	1.24
S103	追従的	3.76	1.43	2.411	3.65	1.43	4.18	1.38
S004	世話好き	3.27	1.48	-0.642	3.18	1.51	3.59	1.37
S104	人に干渉しない	3.47	1.26	0.674	3.53	1.31	3.24	1.03
S005	のんびりした	3.97 **	1.28	4.176	4.00	1.25	3.88	1.41
S105	エネルギッシュな	3.04	1.43	-2.086	3.16	1.47	2.59	1.18
S006	傑出した	2.72 ***	1.28	-4.522	2.89	1.27	2.12	1.17
S106	無難な	3.91 **	1.16	4.138	3.94	1.19	3.82	1.07
S007	おおやうな	3.90 **	1.19	3.915	3.95	1.18	3.71	1.26
S107	厳格な	2.42 ***	1.28	-6.648	2.37	1.33	2.59	1.06
S008	大胆	3.10	1.41	-1.712	3.31	1.40	2.35	1.22
S108	細心	3.71	1.40	2.137	3.66	1.45	3.88	1.22
S009	能力主義の	3.53	1.39	1.019	3.66	1.43	3.06	1.14
S109	平等主義の	3.34	1.27	-0.218	3.23	1.35	3.76	0.83
S010	冷静な	3.54	1.29	1.182	3.65	1.29	3.18	1.24
S110	情熱的	2.95	1.51	-2.493	2.92	1.60	3.06	1.14
S011	執着する	3.66	1.40	1.806	3.65	1.46	3.71	1.21
S111	臨機応変の	3.33	1.13	-0.345	3.42	1.21	3.00	0.71
S012	自立的	3.58	1.30	1.435	3.73	1.24	3.06	1.39
S112	協調的	3.75	1.50	2.219	3.76	1.54	3.71	1.36

** ... p < .01, *** ... p < .001

己評価は、やや慎重、のんびり、無難、おおようであり、それほど支配的でも厳格でも傑出してない、という像だといえよう。

相手の期待評価の各々の評定語の平均値を、相手評価全体の平均値 (3.537) と比較したところ^{*4}、有意に高かったのは「気軽な」「おおような」「冷静な」「臨機

応変の」「協調的」であり、有意に低かったのは「因習的な」「支配的」「追従的」「厳格な」「執着する」であった。被検者学生全体の平均的「上下関係で相手に期待する」姿は、かなり臨機応変で、やや気軽、おおよう、冷静、協調的であり、あまり支配的でも追従的でも執着するのでもなく、それほど因習的でも厳格でもない、という像だといえよう。

次に評定語対の両評定値の和、両評定値の差の絶対値をおのおの算出し^{*5}、TSPS II にならない、評価対象別の和の総和スコア (以下、自己：SPsum、相手：OPsumと記す)、差の絶対値の総和スコア (以下、自己：SMsum、相手：OMsumと記す) を算出した (表4)。桑原 (1991) の人格の二面性尺度では、望ましい言葉で構成されたTSPSにおいては、対になる項目の和の総和スコア (本論ではSPsum、OPsumに相当) は適応性を示すものと考え、差の絶対値の総和スコア (本論ではSMsum、OMsumに相当) が小さいことは人格の“二面性”を示すと考えられた。今回の構成にはTSPS II の望ましくない語対 (「因習的な－新しがりやの」「支配的－追従的」) が含まれ、さらに新規の2語対を追加しているので、SPsum、OPsumがそのまま適応性を示すとは言えないが、SMsum、OMsumが小さいことは二面性を示すものと考えてよいだろう。相手に対する期待評価の場合は、二面を兼ね備えてほしい期待といえる。ここでOMsumには性差が認められた (男>女、 $t=2.07$ 、 $df=77$ 、 $p<.05$)^{*6}。OPsumに性差がなく、OMsumでは性差が見られることから、女性の方が男性よりも、上の立

表3. 平均評定値：相手への期待評価

番号	評価語	合計(79人)			男(62人)		女(17人)	
		平均値	SD	t	平均値	SD	平均値	SD
O001	気軽な	4.25 ***	1.25	5.109	4.23	1.35	4.35	0.79
O101	慎重な	3.61	1.11	0.560	3.50	1.20	4.00	0.61
O002	因習的な	2.56 ***	1.24	-7.041	2.65	1.29	2.24	0.97
O102	新しがりやの	3.29	1.13	-1.931	3.34	1.16	3.12	1.05
O003	支配的	2.18 ***	1.34	-9.040	2.19	1.40	2.12	1.11
O103	追従的	2.04 ***	1.15	-11.604	2.11	1.20	1.76	0.90
O004	世話好き	3.92	1.14	3.012	3.81	1.20	4.35	0.79
O104	人に干渉しない	3.51	1.41	-0.196	3.52	1.48	3.47	1.18
O005	のんびりした	3.75	1.29	1.448	3.71	1.35	3.88	1.05
O105	エネルギッシュな	3.71	1.26	1.207	3.63	1.35	4.00	0.87
O006	傑出した	3.80	1.14	2.033	3.84	1.22	3.65	0.79
O106	無難な	3.30	1.10	-1.885	3.32	1.11	3.24	1.09
O007	おおような	4.46 ***	1.01	8.079	4.45	1.05	4.47	0.87
O107	厳格な	2.77 ***	1.24	-5.486	2.76	1.26	2.82	1.19
O008	大胆	3.57	1.19	0.239	3.63	1.26	3.35	0.93
O108	細心	3.75	1.26	1.482	3.79	1.36	3.59	0.80
O009	能力主義の	3.67	1.15	1.030	3.81	1.19	3.18	0.88
O109	平等主義の	3.58	1.14	0.350	3.52	1.21	3.82	0.81
O010	冷静な	4.43 ***	1.03	7.677	4.42	1.00	4.47	1.18
O110	情熱的	3.49	1.31	-0.297	3.56	1.33	3.24	1.25
O011	執着する	2.22 ***	1.15	-10.210	2.21	1.20	2.24	0.97
O111	臨機応変の	4.86 ***	0.90	13.039	4.84	0.94	4.94	0.75
O012	自立的	3.86	1.13	2.545	3.74	1.17	4.29	0.85
O112	協調的	4.33 ***	1.12	6.295	4.40	1.08	4.06	1.25

*** $p < .001$

表4. 平均スコア：和のスコア、差のスコア

番号		合計(79人)		男(62人)		女(17人)	
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
SPsum	自己評価語対総和	80.95	9.84	82.03	9.93	77.00	8.66
SMsum	自己評価語対総差	21.08	7.78	21.48	8.39	19.59	4.84
OPsum	相手評価語対総和	84.90	8.22	84.97	8.56	84.65	7.08
OMsum	相手評価語対総差	18.59	6.64	19.39	6.83	15.71	5.05

*... $p < .05$

場の人間に対して、相反する二面を同じ程度もってほしい、と期待していると分かる。

2. 評定語間の相関*7:

評価対象別に評定値間の相関を求めた*8。

次に、評価語対間の相関に注目した。

「上下関係の中での自分」の評価語の相関(表5)をみると、反対概念の対語であるため、

基本的には負の相関が出ているが、

「自立的-協調的」「おおような-厳格な」「傑出した-無難な*9」

「のんびりした-エネルギッシュな」の4語対については、相関は

有意ではなかった。桑原(1991)

の指摘のように、反対概念の対で

も一人の人間に共存しやすい対と

共存しにくい対があると考えられ、

先の4語対は一人の人間に共存しやすい概念であるといえよう。反対に、相関係数の高い「執着する-臨機応変の」「支配的-追従的」「世話好き-人に干渉しない」「大胆-細心」の4語対は一人の人間により共存しにくい概念であるといえよう。

一方、「上下関係のある中で上の立場の相手にもつ期待」を評価した語の相関(表6)をみると、有意な負の相関を示したのは「因習的な-新しがりやの」「執着する-臨機応変の」「傑出した-無難な」の3語対だけとなった。また係数も少し低めである。自分のことを思えばより共存しにくい反対概念であっても、上の立場の人への期待としては両方の期待をもっている(あるいは両方であってほしくないという期待をもっている*10)ことが伺える。

続いて、評価対象間の評定値間の相関を求めた*11。そのうち有意な相関が認められたものを表7にまとめた。ここでは、自身をより気軽なと評価する人は、上の立場の人により協調的な、気軽な、臨機応変な態度と、厳格でない態度を期待する、とか、自身をより傑出したと評価する人は、上の立場の人に能力主義と傑出していることを期待する、等といった、しごくもったもな関連が見られる他、自身をより支配的だと評価する人は、上の立場の人に追従的であることを期待する、追従的だと評価する人は上の立場の人に因習的、支配的であることを期待する、自身をより協調的だと評価する人は、上の立場の人に協調的、情熱的、慎重だけでなく厳格な態度を期待する、等といった、複雑な期待が感じられる関連も見られる。

また、同一語の自己-相手間の相関(表8)に注目すると、24項目中14項目に有意な正の相関

表5. 評価語対間相関係数表(自己評価分)

評価語対	相関係数
S011-S111 執着する-臨機応変の	-0.470 **
S003-S103 支配的-追従的	-0.366 **
S004-S104 世話好き-人に干渉しない	-0.356 **
S008-S108 大胆-細心	-0.317 **
S001-S101 気軽な-慎重な	-0.264 *
S009-S109 能力主義の-平等主義の	-0.243 *
S010-S110 冷静な-情熱的	-0.243 *
S002-S102 因習的な-新しがりやの	-0.230 *
S012-S112 自立的-協調的	-0.220
S007-S107 おおような-厳格な	-0.157
S006-S106 傑出した-無難な	-0.129
S005-S105 のんびりした-エネルギッシュな	-0.077

* ... p < .05

** ... p < .01

表6. 評価語対間相関係数表(相手への期待評価分)

評価語対	相関係数	自己評価での相関の強い順位
O002-O102 因習的な-新しがりやの	-0.318 **	8 *
O011-O111 執着する-臨機応変の	-0.304 **	1 **
O006-O106 傑出した-無難な	-0.268 *	11
O008-O108 大胆-細心	-0.219	4 **
O009-O109 能力主義の-平等主義の	-0.214	6 *
O012-O112 自立的-協調的	-0.197	9
O004-O104 世話好き-人に干渉しない	-0.159	3 **
O007-O107 おおような-厳格な	-0.141	10
O005-O105 のんびりした-エネルギッシュな	-0.141	12
O001-O101 気軽な-慎重な	-0.057	5 *
O003-O103 支配的-追従的	0.004	2 **
O010-O110 冷静な-情熱的	0.021	7 *

* ... p < .05

** ... p < .01

表7. 自己-相手間の評定値相関 (有意差のある相関のみ)

番号	自己評価語	番号	相手評価語	相関係数	番号	自己評価語	番号	相手評価語	相関係数
S001	気軽な	- O001	気軽な	0.368 **	S101	慎重な	- O109	平等主義の	0.254 *
		- O003	支配的	-0.285 *					
		- O008	大胆	0.283 *					
		- O011	執着する	-0.231 *					
		- O101	慎重な	-0.226 *					
		- O102	新しがりやの	0.257 *					
		- O107	厳格な	-0.310 **					
		- O111	臨機応変の	0.297 **					
		- O112	協調的	0.419 **					
S002	因習的な	- O002	因習的な	0.420 **	S102	新しがりやの	- O006	傑出した	0.224 *
		- O003	支配的	0.226 *			- O102	新しがりやの	0.347 **
		- O007	おおやかな	0.224 *					
		- O010	冷静な	-0.236 *					
S003	支配的	- O103	追従的	0.238 *	S103	追従的	- O002	因習的な	0.397 **
							- O003	支配的	0.272 *
							- O102	新しがりやの	-0.313 **
							- O104	人に干渉しない	-0.251 *
							- O111	臨機応変の	-0.246 *
S004	世話好き	- O105	エネルギッシュな	0.234 *	S104	人に干渉しない	- O007	おおやかな	0.314 **
		- O110	情熱的	0.229 *			- O104	人に干渉しない	0.377 **
S005	のんびりした	- O001	気軽な	0.310 **	S105	エネルギッシュな	- O004	世話好き	0.238 *
		- O005	のんびりした	0.502 **			- O009	能力主義の	0.304 **
		- O007	おおやかな	0.316 **			- O104	人に干渉しない	-0.289 **
		- O008	大胆	0.361 **			- O105	エネルギッシュな	0.483 *
							- O110	情熱的	0.422 **
							- O111	臨機応変の	0.253 *
S006	傑出した	- O006	傑出した	0.331 **	S106	無難な	- O001	気軽な	0.265 *
		- O009	能力主義の	0.467 **			- O101	慎重な	0.251 *
S007	おおやかな	- O005	のんびりした	0.234 *	S107	厳格な	- O107	厳格な	0.328
		- O101	慎重な	-0.252 *			- O110	情熱的	0.251 *
							- O112	協調的	-0.223 *
S008	大胆	- O008	大胆	0.232 *	S108	細心	- O101	慎重な	0.304 **
		- O009	能力主義の	0.336 **			- O106	無難な	-0.242 *
		- O101	慎重な	-0.227 *					
		- O102	新しがりやの	0.286 *					
		- O105	エネルギッシュな	0.283 *					
		- O111	臨機応変の	0.223 *					
S009	能力主義の	- O006	傑出した	0.265 *	S109	平等主義の	- O103	追従的	0.290 **
		- O009	能力主義の	0.497 **			- O105	エネルギッシュな	-0.257 *
		- O012	自立的	0.384 **					
		- O101	慎重な	-0.237 *					
		- O106	無難な	-0.300 **					
		- O109	平等主義の	-0.231 *					
S010	冷静な	- O001	気軽な	-0.223 *	S110	情熱的	- O009	能力主義の	0.226 *
		- O110	情熱的	-0.283 *			- O104	人に干渉しない	-0.270 *
							- O105	エネルギッシュな	0.349 **
							- O110	情熱的	0.441 **
S011	執着する	- O010	冷静な	-0.259 *	S111	臨機応変の	- O011	執着する	-0.243 *
		- O011	執着する	0.355 **					
S012	自立的	- O008	大胆	0.263 *	S112	協調的	- O011	執着する	-0.251 *
		- O012	自立的	0.310 **			- O101	慎重な	0.255 *
		- O101	慎重な	-0.221 *			- O107	厳格な	0.252 *
							- O110	情熱的	0.248 *
							- O112	協調的	0.418 **

** ... p<01 * ... p<05

が認められた。表8の上位の項目ほど、自己評価が高ければ相手への期待も高いという正の関連がみられた。「のんびりした」「能力主義の」「エネルギッシュな」「情熱的」「因習的な」「協調的」「人に干渉しない」「気軽な」「執着する」「新しがりやの」「傑出した」「厳格な」「自立的」「大胆」については、上の立場の人が、自分自身に対する評価と似たような人であってほしいという傾向が伺える。

一方で、表8の下位の項目ほど、同一語における自己評価と相手への期待とは関連がみられな

い。平均評定値、標準偏差から、「追従的」「支配的」は相手評価の評定値が低く偏り、「冷静な」「臨機応変の」は相手評価の評定値が高く偏り、「慎重な」は自己評価の評定値が高めに偏っていることが分かる。またこの5つの語の評定値の偏りは、母平均から有意に差が認められるものである。ここから、自己評価にかかわらず、上の立場の人には「冷静」で「臨機応変」であってほしく、「追従的」だったり「支配的」だったりしてほしくない、という傾向が予測され、上の立場の人の期待評価にかかわらず「慎重で」いる学生、という傾向が予測される。

3. 評定語の因子分析：

評価対象別に行った、評定語の因子分析を以下に示す(表9,10)。

「上下関係の中での自分」の評価(表9)では、固有値1以上で8因子抽出された。第1因子は、「エネルギーシユな」「情熱的」「大胆」「新しがりやの」「気軽な」の負荷が高く、活動的でフットワークの軽い人物が想像され、活動性因子と命名した。第2因子は、「支配的」「能力主義の」「厳格な」「傑出した」「因習的な」に負荷が高く、能力が高く保守的な印象の人物像が想像され、能力性因子と命名した。第3因子は、「執着する(逆転項目)」「臨機応変の」「冷静な」「人に干渉しない」「情熱的(逆転項目)」に負荷が高く、冷静でとらわれない判断のできる人物像が想像され、客観性因子と命名した。第4因子は、「慎重な」「細心」に負荷が高く、用心深い人物像が想像され、警戒性因子と命名した。第5因子は、「協調的」「無難な」に負荷が高く、周囲に合わせて調整する人物像が想像され、協調性因子と命名した。第6因子は、「追従的」「支配的(逆転項目)」に負荷が高く、受動性因子と命名した。第7因子は、「おおやうな」「平等主義の」に負荷が高く、些事に頓着せず公平な人物像が想像され、寛大性因子と命名した。第8因子は、「のんびりした」に負荷が高く、悠長性因子と命名した。

「上下関係のある中で上の立場の相手にもつ期待」の評価(表10)では、固有値1以上で9因子抽出された。第1因子は、「厳格な」「支配的」「細心」「慎重な」の負荷が高く、管理・統制因子と命名した。第2因子は、「新しがりやの」「大胆」「気軽な」「因習的な(逆転項目)」に負荷が高く、活動性因子と命名した。第3因子は、「臨機応変の」「冷静な」に負荷が高く、客観性因子と命名した。第4因子は、「エネルギーシユな」「情熱的」に負荷が高く、活力性因子と命名した。第5因子は、「因習的な」「協調的」「自立的(逆転項目)」に負荷が高く、慣習・協調性因子と命名した。第6因子は、「傑出した」「のんびりした」に負荷が高く、泰然自若のイメージであり、泰然性因子と命名した。第7因子は、「平等主義の」「おおやうな」に負荷が高く、寛大性因子と命名した。

表8. 自己-相手間の同一語評定値相関

評価語	相関係数
S-O005 のんびりした	0.502 **
S-O009 能力主義の	0.497 **
S-O105 エネルギーシユな	0.483 **
S-O110 情熱的	0.441 **
S-O002 因習的な	0.420 **
S-O112 協調的	0.418 **
S-O104 人に干渉しない	0.377 **
S-O001 気軽な	0.368 **
S-O011 執着する	0.355 **
S-O102 新しがりやの	0.347 **
S-O006 傑出した	0.331 **
S-O107 厳格な	0.328 **
S-O012 自立的	0.310 **
S-O008 大胆	0.232 *
S-O101 慎重な	0.207
S-O109 平等主義の	0.197
S-O003 支配的	0.158
S-O106 無難な	0.152
S-O111 臨機応変の	0.121
S-O004 世話好き	0.095
S-O010 冷静な	0.082
S-O007 おおやうな	0.071
S-O103 追従的	0.068
S-O108 細心	0.031

* ... p < .05

** ... p < .01

表9. 自己評価語 因子分析 回転後の因子負荷表

自己評価語		因子							
		1 活動性	2 能力性	3 客観性	4 警戒性	5 協調性	6 受動性	7 寛大性	8 悠長性
S105	エネルギーシユな	0.792	0.132	-0.078	-0.109	0.039	0.084	-0.120	-0.053
S110	情熱的	0.657	0.233	-0.414	-0.007	0.118	0.100	0.092	-0.125
S008	大胆	0.603	0.068	0.096	-0.192	-0.085	-0.167	-0.010	0.195
S102	新しがりやの	0.550	0.015	0.002	0.045	-0.013	-0.077	0.065	-0.125
S001	気軽な	0.474	-0.286	0.110	-0.365	0.056	-0.235	0.018	0.258
S003	支配的	0.074	0.636	0.018	-0.058	0.039	-0.456	0.001	-0.112
S009	能力主義の	0.221	0.556	0.238	0.069	-0.054	0.071	0.039	-0.208
S107	厳格な	-0.010	0.550	-0.280	0.201	0.038	0.005	-0.246	0.070
S006	傑出した	0.359	0.513	0.021	-0.111	-0.048	0.006	0.196	0.047
S002	因習的な	-0.261	0.483	-0.008	0.147	0.157	0.247	0.016	0.179
S004	世話好き	0.208	0.308	-0.251	0.049	0.307	-0.221	0.167	0.062
S011	執着する・	0.118	0.391	-0.632	0.022	-0.192	0.087	0.065	0.037
S111	臨機応変の	0.151	0.006	0.604	0.014	0.084	-0.257	0.031	-0.111
S010	冷静な	-0.079	0.241	0.578	0.119	-0.103	0.127	0.052	0.038
S104	人に干渉しない	-0.225	-0.053	0.454	0.258	-0.267	-0.039	-0.052	0.256
S101	慎重な	0.036	-0.003	0.160	0.887	0.025	0.212	-0.181	0.288
S108	細心	-0.286	0.102	0.044	0.637	0.005	-0.151	0.062	-0.135
S012	自立的	0.273	0.210	0.241	0.302	-0.240	-0.202	-0.216	0.132
S112	協調的	0.181	-0.026	0.028	0.008	0.835	0.153	0.113	-0.024
S106	無難な	-0.288	0.076	0.039	-0.019	0.558	0.098	-0.052	0.239
S103	追従的	-0.071	0.029	-0.146	0.011	0.227	0.788	0.110	0.069
S007	おおやうな	0.188	0.200	0.192	-0.143	-0.022	0.292	0.789	0.186
S109	平等主義の	-0.232	-0.198	-0.303	0.026	0.332	-0.178	0.585	-0.022
S005	のんびりした	-0.032	-0.017	-0.031	0.064	0.104	0.083	0.095	0.760
分散説明率(%)		11.28	8.83	8.09	6.91	6.33	5.86	5.22	4.63

因子抽出法: 主因子法 回転法: Kaiserの正規化を伴うバリマックス法

24 回の反復で回転が収束。 * は逆転項目。

表10. 「相手への期待」評価語 因子分析 回転後の因子負荷表

相手への期待評価語		因子								
		1 管理・統制	2 活動性	3 客観性	4 活力性	5 慣習・協調性	6 泰然性	7 寛大性	8 対人関与性	9 能力性
O107	厳格な	0.818	-0.191	0.045	0.206	-0.087	0.030	-0.196	-0.062	0.026
O003	支配的	0.680	-0.349	0.009	0.098	0.065	0.090	0.044	-0.031	0.101
O108	細心	0.581	0.002	0.000	-0.210	0.127	-0.104	0.152	0.308	0.094
O101	慎重な	0.467	0.034	-0.039	0.032	0.244	-0.048	0.178	0.080	-0.053
O102	新しがりやの	-0.118	0.691	0.006	0.037	-0.064	0.083	0.073	0.171	0.091
O008	大胆	-0.076	0.681	0.061	0.251	-0.066	0.228	-0.016	-0.253	0.036
O001	気軽な	-0.279	0.491	0.105	0.303	0.162	0.001	0.180	-0.098	0.083
O111	臨機応変の	-0.054	0.222	0.904	0.133	0.031	0.027	-0.072	0.188	0.117
O010	冷静な	0.095	-0.097	0.625	0.032	-0.095	0.051	-0.005	-0.131	0.134
O104	人に干渉しない	-0.237	0.018	0.317	-0.135	-0.176	0.293	0.311	-0.169	-0.011
O011	執着する・	0.209	-0.222	-0.300	0.087	-0.252	-0.185	0.067	0.029	0.172
O105	エネルギーシユな	-0.040	0.099	0.150	0.743	0.009	0.004	0.057	0.218	-0.059
O110	情熱的	0.283	0.239	-0.050	0.705	-0.041	-0.087	-0.075	-0.006	0.118
O002	因習的な	0.247	-0.416	-0.267	-0.034	0.627	0.065	0.070	0.022	0.315
O112	協調的	0.119	0.188	0.276	0.172	0.593	-0.016	-0.062	0.093	-0.079
O012	自立的・	-0.030	0.045	0.107	0.047	-0.477	0.011	0.103	-0.044	0.051
O106	無難な	-0.011	-0.213	0.004	-0.017	0.306	-0.192	0.233	-0.191	0.015
O103	追従的	0.021	-0.003	-0.023	-0.177	0.215	-0.105	-0.004	-0.116	-0.116
O006	傑出した	0.138	0.086	0.049	0.095	-0.077	0.795	-0.123	0.126	0.027
O005	のんびりした	-0.213	0.227	0.094	-0.190	0.030	0.475	0.156	-0.027	0.133
O109	平等主義の	0.189	0.115	-0.133	0.022	-0.124	-0.060	0.771	0.162	-0.145
O007	おおやうな	-0.111	0.296	0.258	0.088	-0.083	0.164	0.307	-0.262	0.013
O004	世話好き	0.117	-0.037	-0.011	0.328	0.026	0.136	0.091	0.675	-0.051
O009	能力主義の	0.096	0.164	0.256	0.049	-0.115	0.103	-0.152	-0.047	0.768
分散説明率(%)		9.13	8.17	7.34	6.56	5.76	4.92	4.51	4.04	3.63

因子抽出法: 主因子法 回転法: Kaiserの正規化を伴うバリマックス法

34 回の反復で回転が収束。 * は逆転項目。

子と命名した。第8因子は、「世話好き」に負荷が高く、対人関与性因子と命名した。第9因子は「能力主義の」に負荷が高く、能力性因子と命名した。

2つの因子構造を比較すると、自己評価・相手評価の第3因子（客観性）と、自己評価・相手評価の第7因子（寛大性）はほぼ同じ構成であり、自己評価の方の第1因子（活動性）が2つに分かれて相手評価の第2因子（活動性）と第4因子（活力性）を構成しているように思われる。しかしそれ以外の因子は、自己評価の時と相手評価の時では構成が変化した。これらの構成が変化した因子は、自分を見つめる時と相手に期待する時とでは同じ語でもニュアンスが変化して受け取られる言葉で構成されていると考えられる。

4. 自由記述：

相手への期待評価、自分の評価を行った後、それぞれ特徴を探して気づきを記入するよう求めた。また、「現実の」上の人との人間関係はとなると予想するか、最悪から最善までいろいろ考えて記入するよう求めた。

相手への期待についての気づきとしては、多くは各々の評定の個人差に基づいた記述がなされていた。その中で、相反する側面の両方を備えることを期待していることを記述したものが36名あった。その主な内容は、偏らずバランスのとれた人物という期待（11名）、状況や時に応じて異なる側面を使い分けられる柔軟な人物という期待（7名）、下の者の個性に合わせて異なる側面で接することのできる度量の広い人物という期待（8名）、もう少し漠然と両面を兼ね備えることを期待するもの（18名）であった。

この気づきの記述の有無と、評定値との関連を見るために、OPsum、OMsumの得点で上位群、中位群、下位群に分けて^{*12}クロス集計し、 χ^2 検定を行った^{*13}。OPsumと記述の有無に有意な差がある傾向が認められ、OPsumの上位群に、両面を兼ね備えることを期待している気づきを記述する人が有意に多いことが分かった（表11、12）。OPsumは、相手への期待の評定値の総和なので、期待が高い評定が多いほどその点が高くなる。上位は必然的に相反する両側面でも両方に高い評定をしている場合が多いので、それを評定紙上で実際に目にして記述にも反映されたと考えられる。

また一方で、上になる人に対して、期待はしない、過剰に期待しない、能力は別として性格に期待していない、という気づきの記述も5名あった。

自分の評価と比較した気づきとして、相手に自分に似た性格を期待しているという記述は16名、自分と反対の性格を期待しているという記述は5名、自分にとって都合のよい性格を相手に期待しているという記述は5名にあった。似た性格を期待するという特徴は、結果2における同一評

表11. 自由記述(両面兼備期待)とOPsumクロス集計

	OPsum			計
	上位	中位	下位	
記述有り	15	13	8	36
記述なし	8	19	16	43
計	23	32	24	79

df=2 $\chi^2=5.348$ $p<.1$

表12. 調整された残差による表11の検定(dij)

	OPsum		
	上位	中位	下位
記述有り	2.247*	-0.728	-1.443
記述なし	-2.247*	0.728	1.443

*... $p<.05$

定語の相手－自己間相関でもある程度あらわれていることである。自分と反対の性格を期待している人の記述には、自分のことを社交的でない、干渉しない、追従的、孤立的と認識しており、同じような性格の人とは人間関係が続かない、逆の性格の上の立場の人に”うまく”活性化してもらえれば、といった内容が見られた。

「現実の」上の人との人間関係はどうなると予想するか、については、多くが「理想」通りの上の人はいない、少し幻滅したり失望したり妥協したりしながら付き合うのが現実、という前提の下で記述している。しかし最悪だと「お互いに迷惑をかける」「プライベートをつぶされる」「やる気をなくす」「うわべだけの関係にとどまる」「ぶつかって離れる、縁を切ることになる」「ストレスをためて首を吊るかもしれない」などと比較的軽いトラブルから深刻なトラブルまでを予想しており、最善だと「お互いを尊重しあえる」「相談にのってもらえる」「やる気が出る」「期待に応える」「やりたいことをさせてもらえる」「自分の才能を伸ばしてもらえる」「自分を成長させてくれる」「相手のようになりたいと目指す」「生涯を通じた付き合いになる」などと、日常的なよい関係から人生を通じて範とし師とするようなイメージが予想されている。

「よくない状態の中でも、私はこのように対処している（だろう）、対処していく（だろう）」といった、主体的な書き方で何らかの行動を記述していたのは10名いた。「年上とも年下ともうまくやっていける」「体育会なので上下関係に慣れているからやれる」「適当に上手く合わせる」といった日常の対人関係で発揮している力を信頼していると思われる記述、「これが現実と割り切って上手く付き合う方法を考える」「相手に期待しないのでたいていの人間には適応していけそう」「権力に反抗せずに未熟な人にも従う」といった諦念の含みのある適応力を示す記述、「自分が精一杯頑張り、謝罪と感謝を忘れない」「好きになれる上司を見つける、ある程度は我慢する」「相手に合わせることも考え、自分を向上させる」という自分自身の向上を含んだ関わりを求めていく記述がみられた。

考察

1. 学生が持つ、教員等上の立場の人への期待の構造とそれへの気づき

今回のアンケートでは、「上下関係の中での」自己を評価してもらったが、そこでの平均的學生像は、めだたないでのんびりといけるように、きつい主張をしないように、慎重に対人関係を持っている、といったイメージが浮かぶ。また、平均的に期待される教員等上の立場の人物像は、支配してきたり追従してきたりせず、適度な距離感をもちながらも、親しみやすい雰囲気を醸しだしつつ、必要な場面に応じて適切な判断と行動ができる、といったイメージが浮かぶ。

女子学生の方が男子学生よりも、上の立場の人間に、相反する二面を兼ね備えていることを期待していると考えられた。これが両面性を積極的に求めたものか、偏ることによる対人関係のリスクを避けたい消極的な気持なのか等、詳細にはさらに異なる検討が必要であろう。

また、相手に自分と似たような性質を求めつつも、自分が苦手な部分については補完的な性質をもつ相手を望む場合もあるようだ。これを言い換えれば、自分に都合のよい相手を求めている、という記述にいきつくのかもしれない。直観的ではあるが、かなり当を得た洞察である。

自身の中には比較的共存しにくい「支配的－追従的」「世話好き－人に干渉しない」「大胆－細心」「気軽な－慎重な」「能力主義の－平等主義の」「冷静な－情熱的」といった概念が、相手への期待となると両方あってはしくなるようである。「期待」であるから現実感覚とのずれは当然起こりうることはあるが、これらの語の示す面において、上の立場の人に期待を裏切られる、と感じることがより起きやすいと考えられよう。上の立場の者でも自身のこととしてみれば共存しにくい概念は当然あるので、「期待を裏切られた」と思われる感じがピンと来なかったり、不条理に感じたりすることが起きうると思われる。

自分では共存させにくい性質を、相手には共存していて欲しいと期待してしまっていると、何らかのトラブルをきっかけにその部分の期待のずれが明確化、尖鋭化すると思われる。これは、今回は学生対象でおこなっているが、教員や職員も対象に、共存しにくい概念が存在することを確認、検討するとさらに明らかになると思われる。

相手への期待評定の因子分析からは、学生がイメージするさまざまな「上位者」のタイプが推測される。「厳しく細かい管理職（第1因子）」「フットワーク軽い時代の寵児（第2因子）」「クールで臨機応変の現実主義（第3因子）」「あつく燃える牽引者（第4因子）」「和をもって尊しの調整役（第5因子）」「ゆとりのトップグループ（第6因子）」「みんなまとめて放任主義（第7因子）」「こまめに世話好き（第8因子）」「できれば文句なしの能力主義（第9因子）」といったところであろうか。因子得点から見ると、個人によって、これらの中の一つのタイプを強くイメージして期待している場合もあるが、多くは複数のイメージを重ねて上位者に期待しているようである。これらのようなタイプの教員は、研究室を探し歩けば確かにいそうである。しかし、例えば「ゆとりのトップグループ」のイメージなどは、今回のアンケート対象者が1、2年生ばかりであることから生まれているのかもしれない。「傑出した」と「のんびりした」が結びつくというゆとり感は、少々ファンタジックであり、実際に研究室に入った修士課程などの学年になるととてももてないのではないと思われるからだ。アカデミックな世界で傑出するには、現実にはものすごい地道な努力が必要になるのである。それを認識・体感する過程は、学生にとって時には挫折したり倦怠に襲われたりやる気をなくしたりする過程となりうる。この点などから、今回のように入学したての1年生が多い集団で調査するのと、実際に大学で研究室に入り、少人数の集団の中でほとんど生活するようになる4年生以降修士課程などの集団で調査するのでは、また異なる構造がみられるのではないかと予想される。

2. 今後に向けて

今回は学生へのアンケートとし、自己評価と相手への評価とを並べて意識させ、内省を求めた。

これが講義の小課題として出されているためもあったか、みなある程度真剣に取り組んだようで、たくさんの気づきを書いた学生も多かった。自由記述にも書かれていたが、ハラスメントの被害にはまだ比較的あいにくい大学入学後すぐの時期に、このような啓発的課題に取り組むことは、今後の学生生活、長い社会人生活をおくる上で、ハラスメントになりかかる問題を対人関係のコミュニケーションの齟齬のレベルに分解しながらこまめに修正をしていけるようになるための重要な基礎になるのではないかと考える。

さらに、このような試みをFDの一端に加え、研究室あるいは専攻をセットとして、スタッフ、学生ともに取り組んでみるのはどうだろうか。例えば、複数人数で集計することによりお互いまず自分と明言しなくてもすむ状態で、集計結果をもとにファシリテーターを含めて話し合いをする、その過程でお互いに対する「理想的」期待を自覚し、それを知った上でお互いがよりオープンになってすりあわせ、現実の妥協点を探っていくなどの共同作業をする、などである。このような共同作業ができるようなら、ハラスメントになりそうな状況を未然に修正していける環境が生まれてくるかもしれない。様々な事情でハラスメント問題に敏感になっている研究室におけるワークショップとしても活用できる可能性があるかも知れない。

ハラスメントを予防するための活動は、基本的にはその効果はすぐには顕在化しない。コミュニケーションが軌道修正され、大きな問題が何となく起こらずにすんでいれば、ハラスメント問題として認識されにくいからである。でもそのように、こじれる前の段階から双方が齟齬のある状態に気づき、気持と手を尽くして、大学で出会えた人達との関係を修復してつなげていければ本当に望ましいことである。大学の構成員はみな、地道な取り組みが少しずつ変化を呼ぶことを願い、長期的な視点で継続していくことが重要である。

註

- * 1 3週間計3回の講義では、ネット上で起こるハラスメント、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメントについての、概要的知識、学生の立場に即した例の提示、心理的背景の解説、誰にでも起こりうるという認識の喚起、相談するための情報提供を行っている。
- * 2 t検定 (Bonferroniのt) による。
- * 3 t検定 (Bonferroniのt) による。
- * 4 t検定 (Bonferroniのt) による。
- * 5 末尾の付表1～4参照。
- * 6 評定語対毎では性差はほぼ認められなかった。ただ、OM01「気軽な－慎重な」については、男>女、 $t=2.91$ 、 $df=77$ 、 $p<.1$ と、差がある傾向にあった (Bonferroniのtによる)。
- * 7 これ以降の分析は男女合計79人分で行った。
- * 8 Pearsonによる相関係数。末尾の付表5、6参照。
- * 9 「傑出した－無難な」「能力主義の－平等主義の」の2対については、TSPSⅡから選ばれたものではなく今

調査で加えたものであるため、対立概念であることを確認する調査がなされていない。

- *10 特に「支配的－追従的」については、両語の平均評定値が3（どちらともいえない）以下であるため、両方の特徴を望んでいないと考えられる。
- *11 Pearsonによる相関係数。末尾の付表7参照。
- *12 上位群、下位群がそれぞれ25～30%となるように、OPsumは107～90、89～81、80～64点で、OMsumは44～22、21～15、14～6点で群分けした。
- *13 OMsum×両面兼備期待：df=2, $\chi^2=3.608$, n.s.、で有意差が認められなかった。

引用文献

- 自己点検・評価専門委員会編 『京都大学自己点検評価報告書Ⅱ 2000』 2001.3
- 桑原知子 『人格の二面性について』 風間書房 1991
- 中川純子 「アカデミック・ハラスメント雑想」 京都大学カウンセリングセンター紀要 第35輯 31-40 2006
- 西村優紀美 「アカデミック・ハラスメント問題と学生相談」 学園の臨床研究<富山大学保健管理センター紀要> 4号 21-30 2005
- 梅津祐良・岡田康子 『管理職のためのパワーハラスメント論』 実業之日本社 2003
- Wilkinson, J. 「アメリカ合衆国におけるファカルティ・ディベロップメントの最近の動向」 筑波大学講演記録集 1997

付表 1. 平均スコア：自己評価（対項目和）

番号	評価語対	合計(79人)		男(62人)		女(17人)	
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
SP01	気軽な－慎重な	7.38	1.59	7.52	1.68	6.88	1.11
SP02	因習的な－新しがりやの	6.25	1.64	6.47	1.59	5.47	1.66
SP03	支配的－追従的	6.13	1.62	6.06	1.75	6.35	1.00
SP04	世話好き－一人に干渉しない	6.73	1.57	6.71	1.62	6.82	1.38
SP05	のんびりした－エネルギッシュな	7.01	1.84	7.16	1.84	6.47	1.81
SP06	傑出した－無難な	6.63	1.61	6.82	1.59	5.94	1.52
SP07	おおやかな－厳格な	6.32	1.61	6.32	1.60	6.29	1.69
SP08	大胆－細心	6.81	1.64	6.97	1.64	6.24	1.56
SP09	能力主義の－平等主義の	6.87	1.64	6.89	1.75	6.82	1.19
SP10	冷静な－情熱的	6.49	1.73	6.56	1.80	6.24	1.48
SP11	執着する－臨機応変の	6.99	1.33	7.06	1.38	6.71	1.10
SP12	自立的－協調的	7.33	1.75	7.48	1.76	6.76	1.64
SPsum		80.95	9.84	82.03	9.93	77.00	8.66

付表 2. 平均スコア：自己評価（対項目差絶対値）

番号	評価語対	合計(79人)		男(62人)		女(17人)	
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
SM01	気軽な－慎重な	1.73	1.35	1.61	1.33	2.18	1.33
SM02	因習的な－新しがりやの	1.57	1.37	1.66	1.38	1.24	1.30
SM03	支配的－追従的	2.13	1.74	1.97	1.77	2.71	1.53
SM04	世話好き－一人に干渉しない	1.75	1.44	1.81	1.48	1.53	1.28
SM05	のんびりした－エネルギッシュな	1.65	1.45	1.65	1.44	1.65	1.54
SM06	傑出した－無難な	1.80	1.23	1.76	1.21	1.94	1.34
SM07	おおやかな－厳格な	1.91	1.43	2.10	1.36	1.24	1.52
SM08	大胆－細心	1.90	1.38	1.90	1.36	1.88	1.50
SM09	能力主義の－平等主義の	1.51	1.46	1.63	1.46	1.06	1.39
SM10	冷静な－情熱的	1.81	1.39	1.95	1.38	1.29	1.31
SM11	執着する－臨機応変の	1.70	1.39	1.84	1.38	1.18	1.33
SM12	自立的－協調的	1.63	1.45	1.61	1.45	1.71	1.49
SMsum		21.08	7.78	21.48	8.39	19.59	4.84

付表 3. 平均スコア：相手への期待評価（対項目和）

番号	評価語対	合計(79人)		男(62人)		女(17人)	
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
OP01	気軽な－慎重な	7.86	1.62	7.73	1.76	8.35	0.86
OP02	因習的な－新しがりやの	5.85	1.39	5.98	1.44	5.35	1.06
OP03	支配的－追従的	4.22	1.77	4.31	1.86	3.88	1.36
OP04	世話好き－一人に干渉しない	7.43	1.67	7.32	1.72	7.82	1.47
OP05	のんびりした－エネルギッシュな	7.46	1.67	7.34	1.76	7.88	1.22
OP06	傑出した－無難な	7.10	1.35	7.16	1.40	6.88	1.17
OP07	おおやかな－厳格な	7.23	1.48	7.21	1.55	7.29	1.26
OP08	大胆－細心	7.32	1.53	7.42	1.67	6.94	0.75
OP09	能力主義の－平等主義の	7.25	1.44	7.32	1.53	7.00	1.00
OP10	冷静な－情熱的	7.92	1.69	7.98	1.79	7.71	1.26
OP11	執着する－臨機応変の	7.08	1.23	7.05	1.26	7.18	1.13
OP12	自立的－協調的	8.19	1.42	8.15	1.38	8.35	1.62
OPsum		84.90	8.22	84.97	8.56	84.65	7.08

付表 4. 平均スコア：相手への期待評価（対項目差絶対値）

番号	評価語対	合計(79人)		男(62人)		女(17人)	
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
OM01	気軽な－慎重な	1.41	1.17	1.60	1.17	0.71	0.92
OM02	因習的な－新しがりやの	1.47	1.44	1.50	1.47	1.35	1.37
OM03	支配的－追従的	1.28	1.21	1.34	1.24	1.06	1.09
OM04	世話好き－一人に干渉しない	1.43	1.38	1.55	1.40	1.00	1.27
OM05	のんびりした－エネルギッシュな	1.43	1.28	1.53	1.33	1.06	1.03
OM06	傑出した－無難な	1.41	1.19	1.48	1.22	1.12	1.05
OM07	おおやかな－厳格な	1.96	1.37	1.98	1.38	1.88	1.36
OM08	大胆－細心	1.37	1.34	1.45	1.39	1.06	1.14
OM09	能力主義の－平等主義の	1.33	1.18	1.42	1.19	1.00	1.12
OM10	冷静な－情熱的	1.44	1.23	1.31	1.15	1.94	1.39
OM11	執着する－臨機応変の	2.85	1.28	2.89	1.28	2.71	1.31
OM12	自立的－協調的	1.23	1.31	1.34	1.34	0.82	1.13
OMsum		18.59	6.64	19.39	6.83	15.71	5.05

△ … p < .1

* … p < .05

行番	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100					
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0086	0087	0088	0089	0090	0091	0092	0093	0094	0095	0096	0097	0098	0099	0100
行番	0001	0002	0003	0004	0005	0006	0007	0008	0009	0010	0011	0012	0013	0014	0015	0016	0017	0018	0019	0020	0021	0022	0023	0024	0025	0026	0027	0028	0029	0030	0031	0032	0033	0034	0035	0036	0037	0038	0039	0040	0041	0042	0043	0044	0045	0046	0047	0048	0049	0050	0051	0052	0053	0054	0055	0056	0057	0058	0059	0060	0061	0062	0063	0064	0065	0066	0067	0068	0069	0070	0071	0072	0073	0074	0075	0076	0077	0078	0079	0080	0081	0082	0083	0084	0085	0														

• ... p < .05
: ... p < .01

相手関係	

$$\vdots \leq p \leq 0$$